



令和6年度 大野城市立大城小学校 校長便り

第15号

(令和7年1月8日 水曜日)

【文責】校長 弘松 英樹

大城の風

～校長室の窓から～



本校ホーム
ページは
こちらから←

「夢をかなえる」ということ

新年あけましておめでとうございます。

本日、学校では3学期の始業式を迎え、子どもたちの元気な姿が戻ってきました。みんなはどんな冬休み、お正月を過ごしたのでしょうか。新たな夢や目標を描き、頑張ろうという気持ちになっている子も多いかと思います。

いつの時代も、子どもの「将来の夢」は世間の関心を集めるものです。2024年の小学生の将来なりたい職業は、1位「パティシエ」、2位「youtuber」などのネット配信者、3位「警察官」だそうです(学研教育総合研究所調べ)。



【学校にいただいた手作りのしめ飾りで新年を迎えました】

私は、子どもたちには「夢」について、その職業に就くということだけでなく、「自分はなぜ、その仕事をしたいのか」という理由を掘り下げて考えてほしいと思っています。そうすると、お金儲けをしたいとか、有名になりたいということだけではなく「人に喜んでもらいたい」「楽しい気持ちになってほしい」「みんなの幸せを守りたい」というような「人の役に立ち、人を幸せにすることが自分の幸せになる」という根本に行きつくのではないかと考えています。

例えば、パティシエになりたいと思っていても、もしかしたらなれないかもしれません。でも、その根本にある思いが「人を幸せにしたい」とか「人の役に立ちたい」ということであれば、他の方法や職業でかなえることができます。自分のもっているよさや得意を生かして、努力の結果それを成し得た時、人は生きがいを感じ、幸せになれるのではないのでしょうか。

ですので「夢をかなえる」ということは、自分のよさや可能性を発揮して、人や社会の役に立ったり、人を幸せにしたりできる自分になるということではないかと思っています。

そう考えると、子どもが「夢をかなえる」ために、私たち大人ができることは、その子のよさを見つけさせ、伸ばせる機会を奪わないこと。そして、いろいろな選択肢に出会わせ、自分で選ぶ力をつけてあげることだと思います。どんな仕事に就いたとしても、一番大切なことは、自分に自信や誇りをもって、人のために働いているかどうかだと伝えたいと思っています。

まだ、自分の「夢」が見つかっていないという子も多いと思います。そんな子どもたちのためにも私たちは、誰かにとって「素敵だな」「カッコいいな」と思われる存在でいたいですね。

新しい1年が、子どもたちにとって「夢」のある、将来が楽しみだと思える年になるように大人も自分の「夢」を追い求めていきましょう。今年もよろしくお願いいたします。